

# Daily Report (号外)

## ～3月の米雇用統計について～

### 結果概要

米国労働省が4月3日に発表した3月の雇用統計は、非農業部門雇用者数は前月比+17.8万人と市場予想(同+6.5万人)を大幅に上回る結果となりました。

業種別では、教育・ヘルスケア業は前月比+9.1万人(前月:同▲4.2万人)、輸送・倉庫業は同+2.1万人(前月:同▲4.9万人)、娯楽・宿泊業は同+4.4万人(前月:同▲1.1万人)と増加に転じるなど、幅広い業種で労働市場の堅調さを示す結果となりました。

失業率は4.3%と市場予想(4.4%)を下回り、前月(4.4%)から低下しました。平均時給は前年同月比+3.5%と市場予想(同+3.7%)を下回り、前月比は+0.2%と市場予想(同+0.3%)を下回る結果となりました。労働参加率は61.9%と市場予想(62.0%)を下回りました。

### 市場反応(4月3日の米国市場)

米国株式市場は祝日のため、休場となりました。

米国債券市場は、雇用統計が堅調な結果となったことを受けて、FRBが長期にわたり政策金利を据え置くとの見方が広がったことから売られ、10年国債利回りは前日比+0.04%の4.34%程度で引けました。

米ドル/円は、祝日のため方向感に欠けた展開となり、前日比7銭円安ドル高の159円67銭程度で取引を終えました。



(期間)2025/1/1～2026/4/3 (出所)Bloomberg

## 評価及び今後の見通し

3月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に上回り、ストライキの影響を受けて落ち込んだ2月から反発しました。また失業率が改善した一方、平均時給は前月比・前年比ともに鈍化しており、労働市場の堅調さとインフレ圧力の減退が並立するソフトランディングへの期待を裏付ける結果となりました。

金利先物市場では、FRB議長のケビン・ウォーシュ氏への交代を控え、4月のFOMCで政策金利据え置きがほぼ確実視されています。ただし、賃金インフレの沈静化は早期利下げを期待する市場の支えとなる一方、緊迫化する中東情勢を受けた原油価格の高騰がスタグフレーション懸念を再燃させており、先行き不透明感が高まっています。

今後の株式市場は、短期的には4月9日発表の米PCEデフレーターや、4月10日発表の米消費者物価指数など、インフレや消費の動向を測る主要指標や、次期FRB議長の承認プロセスの行方に注目が集まると見込まれます。今回の雇用統計の結果は労働市場の短期的な弱さの終結を示したものの、明確な終わりが見えないイランとの戦争による労働市場の下振れリスクも高まっていることから、米金融政策や市場の方向性は、今後の各種公表データや中東情勢に左右される、ボラティリティの高い展開が継続すると見えています。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所:米国労働省

	25/10	25/11	25/12	26/1	26/2	26/3
非農業部門	-14.0	+4.1	-1.7	+16.0	-13.3	+17.8
鉱工業部門	-2.0	+2.5	-2.1	+4.5	-2.0	+4.3
建設業	-1.2	+3.6	-0.7	+4.5	-1.3	+2.6
製造業	-0.9	-1.0	-1.3	+0.2	-0.6	+1.5
資源・鉱業	+0.1	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	+0.2
サービス部門	+3.3	+4.7	+1.4	+13.5	-10.9	+14.3
卸売業	+0.3	-0.6	-0.6	+0.2	+0.7	+0.3
小売業	-1.5	-0.1	-2.4	+1.3	-0.8	+1.0
輸送・倉庫業	+0.1	-5.9	-0.5	+2.3	-4.9	+2.1
情報	-0.6	-0.5	-0.6	-2.7	-2.1	-0.3
金融	-0.5	+0.1	+0.1	-3.9	+0.2	-1.5
専門・ビジネスサービス業	-2.4	+5.6	-1.9	+3.6	+0.7	+0.2
人材派遣業	-2.0	+1.4	-1.4	+1.9	-0.0	+0.4
教育・ヘルスケア業	+4.4	+5.6	+3.8	+11.9	-4.2	+9.1
娯楽・宿泊業	+4.1	-1.2	+2.5	+0.5	-1.1	+4.4
その他	1.5	0.4	2.3	-1.5	0.6	-1.4
政府部門	-15.3	-3.1	-1.0	-2.0	-0.4	-0.8
失業率(%)	4.4	4.5	4.4	4.3	4.4	4.3
平均時給(前年同月比、%)	3.9	3.9	3.7	3.7	3.8	3.5

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移

